

青青会

平成三十年 九月十七日 (月・祝) 午後一時半開演

杉並能楽堂

大蔵流狂言 第六十二回 ◆入場料 全席自由席(見所は座敷です) 一般二〇〇〇円 学生一〇〇〇円



一般財団法人 杉並能楽堂主催

次回公演のご案内 山本会
平成30年11月4日(日)
午後1時半開演 杉並能楽堂

Suginami Nohgakudo

杉並能楽堂

十貫坂上

※駐車場はございませんので
車での来場はご遠慮下さい

中野通り

マルエツ プチ●

●和菓子店

タバコ店●

●クリーニング店

寿橋

 中野富士見町駅
Nakano-fujimicho Sta.

東京メトロ丸ノ内線 中野富士見町駅より徒歩5分

杉並能楽堂

〒166-0012

東京都杉並区和田 1-55-9

TEL 03-3381-2279

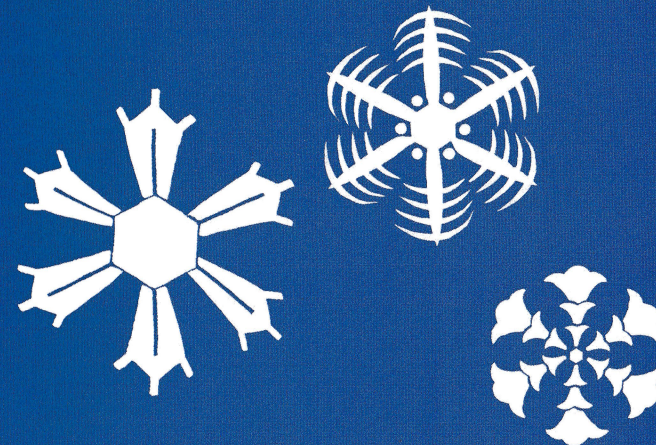
表紙 立浪 (山本東次郎家所蔵 肩衣より)

Photo: Yoshiaki Kanda

《あらすじ Stories》

◎木六駄(きろくだ)

伯父が任官し、その披露の為の新築に材木が欲しいと言つてよこしたので、主人は柱を三十本送ろうと太郎冠者に使いを頼む。今にも雪が振り出しそうな空模様だが、主人から諸白(上等の酒)を振る舞われて気分を良くした太郎冠者は、祝儀の酒樽を背負い、柱を乗せた六頭の牛を追いながら、山向こうの伯父の家へ向かう。たった一人で越える雪の山道、凍えきつた太郎冠者は峠の茶屋で一休みし、暖まろうと思つたが、あいにく茶屋では酒を切らしていた。背に負つた諸白に目を留めた茶屋の主人の進言で太郎冠者は酒樽の封を切ってしまう。



雪文様 (山本東次郎家所蔵 肩衣より)

青青会 番組

宝の槌

シテ（太郎冠者）

山本 則重

アド（主）
アド（売り手）

山本泰太郎
若松 隆

箕被

シテ（夫）

山本 則孝

アド（妻）

山本凜太郎

—— 休憩 ——

木六駄

シテ（太郎冠者）

山本 則秀

アド（主）
アド（茶屋）
アド（伯父）

山本泰太郎
山本東次郎
山本 則俊

お話

山本 東次郎

◎ 宝の槌（たからのつち）

世間では宝比べが大流行、主人から都へ行つて、不思議な力を持った宝物を買ってくるよう言いつけられた太郎冠者、ところがそれはどのような物でどこで売っているのかを聞かずに来てしまった。困った太郎冠者が「宝を買います」と呼び掛けて歩くのを見つけた都の男は、太鼓の撥をその昔、鎮西八郎為朝が鬼ヶ島へ鬼退治に出掛けた時に手に入れた打出の小槌だと言って高値で売りつける。男から欲しい物を打ち出す呪文を教えてもらい、大喜びで主人の元に戻った太郎冠者は早速、求めに従つて馬を出してみようと試みるが…。

◎ 箕被（みかづき）

連歌に興じて友人宅を泊まり歩き、家庭を顧みない夫、当番役が回ってきたので準備の為、ようやく帰宅するが、家計のやりくりもままならぬのに大きな出費の要る当番役と聞いた妻は、遂に堪忍袋の緒が切れ、離婚を申し出る。あっさり同意した夫は、妻から何か印の品をと乞われ、朝夕の食事の支度に使っていた箕を渡す。箕を被いて親里へ帰る妻の後姿を見た夫は思わず、「いまだ見ぬ、二十日の宵の三日月は」と詠み掛ける。それを聞いた妻は、返歌をしなければ後の世に口の無い虫に生まれ変わると、立ち戻つて鮮やかに後の句をつけてみせる。